

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370300677
法人名	医療法人 愛生会
事業所名	グループホーム 愛生
訪問調査日	平成 21 年 2 月 23 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月22 日

【評価実施概要】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生		
所在地	熊本県人吉市二日町22番地 (電話) 0966-24-6965		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(21年 1 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日	18年3月30日	1ユニット追加
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.7

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート
	6 階建ての 4 階~ 5階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	他の経費(月額)	光熱費 300円/日	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

(4) 利用者の概要(1 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	69 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外山内科 外山病院 熊埜御堂歯科
---------	------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

人吉の中心部の病院の4・5階にあるホームは市内全域を一望できる環境にあり、ハード面のリスクを払拭するよう職員が創意工夫しながら家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。ホームでの生活が画一化しないように、多くの外出の機会を計画したり、学習療法による認知症進行予防等メリハリのある日常生活を支援している。職員の健康管理により異常発見や緊急時対応等母体病院や系列施設との連携した取組が入居者・家族へ安心感を与え、階下で透析治療を受けられる等の利点もあり、終末期への取組みは全職員が心を一つに家族や主治医等と連携を図り取り組んでいる。又、職員の明るく対応する姿勢や寄り添いのケア・目線を合わせたケアの実践が入居者の発語や笑顔を引き出し、和やかな生活となって表出されており、質の高いケアを実践していることが窺われる。法人が一体となり地域福祉の向上に取り組まれており、ホームの職員と家族がキャラバンメイトに加入されており、今後も認知症ケア増進に貢献されることが大いに期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 固定化していた運営推進会議への参加をケアマネジャーとともに介護職員・入居者も参加するように変更し、災害対策として隣近所や消防隊に協力要請を行い災害時の協力体制を強化する等具体的な改善を図っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は1年間の集大成としてケアを振り返り改善課題を明確にする機会と捉え、今回の自己評価は全員で取り組んでいる。法人が開催する全体会議の中で外部評価の取組みを発表する機会を与えられている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定例化した運営推進会議は行政・地域包括支援センター・町老連会長と役員、民生委員や同法人のデイサービスセンター・家族と入居者等が参加し、サービス内容や行事等を報告し、質疑応答を行っている。管理者は運営推進会議をホーム運営に反映する手段として積極的に取組み、年間行事予定表や入居者の日常生活を見てもらうよう地域交流ニュースを配布し、会議の中で困難事例を話し合っている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月グループホームニュースを発行し、訪問時や年3回家族との親睦会の中で個々の状況を説明している。家族とは訪問時や手紙によりどんな些細な意見や要望を出してもらいようをお願いしており、家族からの苦情は出ていないがケアへの要望は出されており、苦情係が些細な要望でも記載し、ミーティングやカンファレンスで話し合いケアに反映させるよう努めている。又、ホーム内外の苦情相談窓口を掲示している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月別院との相互交流を図り、社協のデイサロンや様々な地域行事へ参加し地域住民との積極的な交流を行っている。中学生のボランティア・小学生の慰問や家族・障害者家族・地域住民が一体となって開催した運動会でのパン食い競争に参加したりと、地域の中での生活は拡充され、小学生と入居者との手紙のやりとり等も行っている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念“医療・介護・福祉・保健のトータルヘルスケア体制の構築と地域に貢献すること”を基に、ホームとして“尊厳 自立 共生”を掲げ、職員には3項目を平易な言葉で具体的に示し、入居者の生きてきた過程を大切にケアに取組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に理念を説明し、理念の意識付けに大きく掲示している。管理者は業務ミーティングやカンファレンス時理念に向けた実践の方向性を示し、日常的にも事例を通じて指導をしている。「相手を思いやる気持ちを忘れずに、相手のリズムに合わせて、目線を合わせてゆっくりしっかり、耳をかたむけ、ちょっとした気付き(サイン)はみんなでコミュニケーションをしっかりと」という介護注意点を掲げ、全員が共通認識で取組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月別院との相互交流や社協のデイサロンや様々な地域行事へ参加し地域住民との積極的な交流を行っている。中学生のボランティア・小学生の慰問や家族・障害者家族・地域住民が一体となって開催した運動会でのバスケ競争に参加したりと、地域の中での生活は拡充され、小学生と入居者との手紙のやりとり等も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は1年間の集大成としてケアを振り返り改善課題を明確にする機会と捉え、固定化していた運営推進会議への参加をケアマネジャーとともに介護職員・入居者も参加するように変更し、災害対策として隣近所や消防隊に協力要請を行う等災害時の協力体制を強化する等具体的な改善を図っている。今回の自己評価は全員で取組み、法人が開催する全体会議の中で外部評価の取組みを発表する機会を与えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例化した運営推進会議は行政・地域包括支援センター・町老連会長と役員、民生委員や同法人のデイサービスセンター・家族と入居者等が参加し、サービス内容や行事等を報告し、質疑応答を行っている。外部評価結果をこの会議で報告し、足りない部分は協力していただきたいとなげかけている。管理者は運営推進会議をホーム運営に反映する手段として積極的に取組み、年間行事予定表や入居者の日常生活を見てもらおうよう地域交流ニュースを配布し、会議の中で困難事例を話し合う等ホーム運営に活かしている。	○	運営推進会議がホーム運営に反映すべく積極的な姿勢で取組まれており、不参加の家族へ議事録を送付し情報の共有化を図ったり、事前の課題の提示や入居者の日常を体験してもらう等検討されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が主催する研修への参加や介護認定申請時等情報交換を行っている。認知症キャラバンメイトとして活躍しており、地域包括センターにも参加を依頼しクリスマス会に認知症の研修を行ったり、権利擁護事業を活用した入居者の困難事例では社協と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月グループホームニュースを発行し手紙・預かり金の残高を送り、訪問時や年3回家族との親睦会の中で個々の状況を説明している。金銭管理を個別に行い家族のサインにより確実性を図り、入居者の状況変化や緊急受診時には電話連絡により家族と情報を共有している。特に遠隔地の家族には状態変化が無いときでも手紙により状況を連絡し安心につなげている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に訪問時や手紙によりどんな些細な意見や要望も出してもらおうようお願いしており、家族からの苦情は出ていないがケアへの要望はあり、苦情係が些細な要望でも記載し、ミーティングやカンファレンスで話し合いケアに反映させるよう努めている。又、ホーム内外の苦情相談窓口を掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援の重要性を認識しており、昨年度までは法人職員の夜勤帯の支援を受けていたが、今年度から職員体制を変更しすべてホーム職員で支援している。入居者のADLや外出時の不安解消にユニット間の異動は行われているが、ユニット間の交流も頻繁に行っており、利用者のダメージは無い。管理者は職員の体調把握や日常的なコミュニケーションに取組み離職防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修体制は確立し、年2回はグループホーム職員が学習療法・外部評価への取り組み・認知症ケアについて発表し、職員の自信へつなげている。県宅老所協会・グループホーム連絡協議会ブロック会・ケアマネジャー協会等の様々な外部研修へ参加したり、日々のケアを指導しながらレベルアップに努めている。資格取得にも積極的であり、介護福祉士の勉強会を昼30分階下の認知症デイサービス職員と合同で計画を立て行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会で同業者との情報交換や事例検討会等質の向上に努めている。ホーム同士の相互訪問や近隣のグループホームとの情報交換等ネットワークが確立している。管理者は看護協会の研修会で認知症ケアを話したり、介護保険改定等話合う機会も多い。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に生活状況の把握に努め、ホーム見学により職員や他の入居者と一緒に過ごし雰囲気を体験し安心した入居としたり、即時の入居にはこれまでの関わりのあるケアマネジャーに立ち会ってもらい安心や納得のうえでの入居を支援している。入居後は環境変化に職員が寄り添い、帰宅願望と一緒に散歩に出て落ち着いてもらう等臨機応変に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の発せられる言葉に傾聴し、ゆっくりと向き合い、昔のしきたりを引き出したり、入居者へ出番を作り、共に生活する中で支えあう関係を築いている。男性職員は時には父親として、時には子どもとして慕われていることも確認できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
		○思いや意向の把握			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報や日々の行動や時々の表情や言動等から個々のサインを察知したり、しぐさから推察している。3ヶ月毎のカンファレンスで検討し、本人本位になるよう支援している。意思表示の困難な入居者や無表情な方等も今では話をしたり明るい表情が出る等職員のケアの確かさを確認できた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を把握し、入居1～2週間は観察の期間と位置づけ、職員全員でできること・出来ないことを把握し、介護計画に反映させている。センター方式を採用し、入居者個々の声かけ方法等ケアの統一に向けた個別的な計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの計画状況や効果・評価等モニタリング、ケアカンファレンスを3ヶ月毎に交互に開催し、家族の要望や意見に応じ見直している。家族会時に意向を聞いたりプランの説明を行い、特にターミナル期の入居者には主治医の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階が外来、2階は透析、3階は認知症デイサービスという立地条件から日々の健康管理や透析を受けながらホームでの生活が継続され、医療連携体制を活かし早期の退院につなげている。又母体施設と連携した行事や認知症デイサービスでのラジウム温泉の使用や入居者の希望に応じた買物支援等多機能性を発揮している。今年は特に骨盤内骨折の入居者も入院することもなく、主治医の指示のもと、家族の協力を得てホームでの生活を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に説明し、母体医院がかかりつけ医となっている。心療内科医師の定期的な受診も支援しており、情報交換や助言をもらう等適切な医療を支援している。医療との連携が密に図られ、内科医師の往診等もあり安心した生活を支援している。		
		○重度化や終末期に向けた方針の共有			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する指針をもとにホームで出きる最大限のケアを家族に説明し、状態変化に家族・主治医・ホーム側で話し合いを重ねている。現在経腸栄養（PEG）のや透析を受ける入居者等もおられ、医療との連携はもちろんのこと、職員の共通認識と家族の協力によりホームでの生活を継続している。延命処置は行わず自然に任せホームでの看取りを希望される家族もあり、吸引機や酸素の用意や家族室も用意している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々に合わせた声かけや傾聴する姿、トイレ誘導時等プライバシーに配慮したケアを実践している。、“相手の会話に合わせ、昔の呼び名 ちゃんづけ、お母さん おばあちゃん と呼び合う事があります。(回想法)”と掲示し、方言を使った自然な会話からも日常の取組みがうかがわれる。家族に個人情報の使用目的を説明し同意書を受入れ、職員やボランティアで訪問する人たちにも情報漏れの無いよう注意をし、個人記録も事務所内に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作成しているが、個々の体調やペースに合わせて生活ができるように支援している。マイペースでの食事や天気の良い日には畑の草取りや散歩に出たりとのその時々々の気持ちを把握し本人本位になるよう職員が一緒に取組んでいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の話題をしながら献立を立てたり、食器から出来上がるであろう献立を連想させたりと楽しみな食事になるよう取組み、調理への参加や台拭き・配膳・下膳・後片付け等力量に応じ一緒に行っている。職員は同席し入居者の食事の進み具合を確認しながら同じ食事をとっている。希望メニュー日や行事食等もあり、プランターで育てた季節の野菜も食卓に上り、入居者と職員との会話を広げる手段としている。		
		○入浴を楽しむことができる支援	個々の体調により声かけを行い、毎日支援している。仲間と一緒に		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の体調によりケアを行う、毎日支援している。作業時間での入浴や夜間の入浴、一日2回入られる入居者もおられる。入浴拒否される方にはチェック表をもとに声かけを工夫しながら支援している。階下にある認知症デイサービスのラジウム泉の“愛生の湯”をユニット毎に利用できることも温泉気分を楽しみとなっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出来ることや特技を把握し出番や得意分野を発揮できるよう支援しており、季節に応じた多くの外出・行事への参加・料理への参加や洗濯ものたたみ・掃除など一緒に取り組んでいる。入居者一人ひとりの能力に応じた学習療法を取り入れ認知症進行防止に取り組んだり、得意分野である梅干・梅酒作りや切干大根作り等に活躍されており、役割のある日常生活が自信回復へとつなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが4・5階であるという条件を払拭するように、天気の良い日には散歩へ出かけたり、弁当持参でのハイキング、毎月神社や寺院での参拝、同法人が行う華道やレクリエーションへの参加等戸外へ出ることが常態化している。合同レクリエーションは入居者が参加できるものに変更しており、フラダンスや紙芝居等で楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム専用の玄関は日中鍵をかけずインターホンでの対応となっており、ホーム4階の事務所にモニターが付けられ、夜間は警備会社の管理となっている。居室も自分の部屋だからと自ら内鍵をかけられる入居者もおられ、常に所在確認等行動に注意し声かけを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回自主避難訓練や消火器の使い方、エレベーターの綴じ込み訓練が行なわれている。年2回消防署の査察もあり今年度は防災管理者研修に参加している。火災報知器も消防署に直結し、煙探知機や熱探知機等安全面への整備は充実しており、避難経路図を用意している。また、職員は火元確認を行っている。地域の協力を得るため町内会長に依頼し、非常災害時の避難場所として提供することも了承している。	○	自主訓練では4階・5階から階段を使って入居者に降りてもらい時間を計測したり、避難場所としてベランダを使用してみたりと防災に対して高い意識で臨んでいる。地域の消防隊にあいさつ回りもされており、協力体制をとりたいという意向もある。消防署立会いのもとの訓練を計画され、地域住民にも2次的見守りをお願いしてみる等検討いただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事チェック表を作成し、法人の管理栄養士にメニューを見てもらい評価を受けたり、指導を受けている。又、透析の必要な入居者には汁ものを少なめにしたり、食事形態も個々の嚥下状態等に応じ個別に対応している。水分は一日1300ml～1500mlを目安に毎食時や午前午後、入浴後等適時支援している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットから山々が遠景に望め、ホームにいて季節の移り変わりが感じることができる環境にある。畳の部屋には炬燵を置き、入居者の作品や写真等を掲示した廊下や季節の花を活けたりと家庭的な雰囲気作りを取組んでいる。夏場は窓を開け空気を入れ替えアロマセラピーを使用しており異臭もなく、ストーブ周りでゆっくりと寛がれる入居者の姿もあり、居心地良く過ごす工夫が随所に表出されている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた物の持参を依頼しており、タンスや仏壇、椅子・三味線やお針箱、家族写真等が持ち込まれ、自由にレイアウトされている。家族の意向が良く反映された居室は季節に応じて飾り物を入れ替えされており、季節柄ひな壇飾りが目を引いている。又、転倒予防が施された居室や畳を入れた部屋等家族の協力や職員の工夫が反映されている。</p>		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 愛生
(ユニット名)	グループホーム 愛生 4階 5階
所在地 (県・市町村名)	熊本県人吉市二日町22
記入者名 (管理者)	池田 真由美
記入日	平成 21 年 1 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目で4F

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳・自立支援・共生を理念としている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に必ず理念を伝え理解してもらい、目につく所へ大きく提示し、常に入居者の立場に立って行動するよう心がけすることを例をあげて話す	○	出来ていると思うが時間に追われている所が時々みられる。常に入居者の立場に立ちゆっくりとした時間を共有する
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には、面会時や家族交流会などに、地域の方には、ホーム見学や運営推進会議などを通して伝えている。月/1回のホーム便りや行事写真・交流ニュース発行、お祭り参加、運動会見学、文化祭見学、面会時など	○	ホームページを再度検討
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出先や買い物先でのあいさつ・行事参加・理美容室の利用・お寺・幼稚園など親睦会へお誘い		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	デイサロン・夏祭り・球磨川川開き・消防大会・人吉文化祭・ふるさと祭り・幼稚園、小学校行事、別院などに出かけている。三者の会運動会参加。	○	老人会の運動会ゲートボール見学。8月、中学生のボランティア。12月小学生の慰問。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話での相談がある時は電話で対応し説明、また運営推進会議を通して地域包括支援センターとの情報交換・相談を行っている	○	認知症に対してのネットワーク作りに参加(見守りネットワーク、認知症サポーター)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は全スタッフで目を通し、出来ていない部分の検討を行いサービスの質の向上に努めている	○	昨年は外部評価を受けインシデントレポートの作成、地域交流の部分で幼稚園・寺院の参加。トイレの家庭的雰囲気作りなど
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報を得、行政からの情報を得ながら行事などに活かしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	バスハイク・GH行事の参加を促すと共に、行政主催の研修参加・地域の認知症の方の情報交換・GHブロック会参加している	○	包括支援センターの職員・及び地域連携室・ケアマネにて、家族・グループホーム、認知症デイサービスの職員に認知症の研修を実施。キャラバンメイトへの加入。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケアマネジャーの研修・GHブロック会研修の参加などで学ぶキャラバンメイトの勉強会	○	1人暮らしの方入居で、社協での入居費の支払いで関わりあっている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターからの報告を活用しながら勉強会やミーティングで、虐待は行なわないよう努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する考え方や理念を、また退居の件など可能な範囲で説明。医療連携体制・重度化や看取りについての対応は説明し同意を得ている家族の質問に可能なかぎり答えている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会・面会時に意見をうかがい、家族からの発表の場を設けている。苦情窓口を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回 手紙・写真(行事)預り金の残高のコピーを送り、面会時、親睦会には状況報告、また電話での報告。金銭については家族のサイン。緊急病院受診はすぐに報告	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には手紙や訪問時に意見がないか伺いながら、ちよとした気づきがあれば言ってもらえるように、出された意見はミーティングやカンファレンスで話し合いをしている苦情係をもうけている	○ ケアに反映させる努力をしている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回 全体ミーティング(行事・業務内容の確認) 何か問題発生時ミーティングを行っている。	○ 職員に要望・意見を聞くように心がけているが、把握しきれてないことが多いと思う。月1回のペースで面談がもてればと考える ミーティングの時の充足反映と職員の体調の把握
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事の参加・バスハイク等のときは1週間前より話し合いを行い職員配置の調整を行い、又状態変化を生じた時は緊急連絡体制をとっている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの職員の移動は4F・5Fのみで行なっている。ほとんど顔なじみ、夜勤もグループ職員。新しい職員が入るときは入居者に紹介している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修の参加・2回/月Eナース・1回/月院内研修・事業所外の研修参加 年2回グループホームの発表の場を設けている家族と一緒に研修を受けている。	カンファレンスを通じてその人のケアの把握を行なっている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉・球磨グループホームブロック会の学習会や交流を行い、事例検討会を通してサービスの質の向上を目指す	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の状態を見ながら声かけ、勤務時間中の休憩にて気分転換が図れるよう努めている。親睦会にてコミュニケーションを図り、ストレスの軽減に努めている。	運動不足解消とストレス軽減の為にビーチボールバレーを1回/月行う。又、運動マシーンにて運動を随時行っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表作成する時希望休を提出することが出来る。勉強会、ブロック会を通じ同業者とのコミュニケーションにて向上心が向上するように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居する前に本人と面談し生活状況の把握に努める。その人の立場に立って聞くように心がけ、入居者様が話しやすい雰囲気をもつようにこころがける。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めていることを事前に面談し今までのサービス利用状況や経緯について聞きどのような対応ができるか検討している 家族交流の場で意見を聞いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人と家族の思いや状況を確認している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に本人の施設見学・他の入居者や職員と会う場面をつくっている。又すぐ入居される方には家族やそれまでかかりあったケアマネなどに立会いをしてもらい安心感を得るよう心がけている。以前、使っていた家具等の持込をし、環境になじんでいただく		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の一言に傾聴を心がけ共に支えあえる関係作りに留意しお互いに協力しながら和やかな安心した生活を送れるように声かけを行なっている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子・くらしの出来事や気づきの情報を家族に伝えながら行なっている。何か問題等があった場合には、すぐ連絡をとるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	手紙、談話等で行事への参加の誘いや日頃の様子を報告・相談している。家族との外出・外泊、又外食自由 面会も自由	○	外泊する機会が増え家族との時間があればよいと思う。遠い所の家族の方で行事参加は増えている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室を家で利用していた物を持ってきてもらっている。昔から利用している美・理容室へ行かれる人、親友の面会など。お寺へ(檀家)お参り。	○	キーパーソンの方と相談しお墓参り・自宅への道のり確認
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	作業とを通じて、みんなで楽しく過ごす時間・気の合った人同士での会話、又心身状態や気分・感情での変化がある時は見守りながら行なっている		気が合わない人に対して座席移動を検討しながら行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方に対しては家族、入院先と連絡をとり会いお見舞いや状態把握に努めている。 お便りを出している	○	行事の参加のお誘いや遊びに来てもらうように、付き合いが出来るように心掛けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している	かかわりの中で声かけや、言葉・表情などの把握につとめ確認。 又困難な方は家族からの情報を得ている。 常に本人にとってどのような暮らしがいいのか検討3ヶ月に1回、問題が起きた時に随時カンファレンスして行なう	○	希望時の外出や入居前の行動パターンに合わせ、外出したい時に外出をさせる。 又、入居時に受診にて身体の状況把握に努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に馴染みの湯のみ・茶碗、箸今まで使用していたタンズ・鏡台・椅子など持って来てもらい、又本人や家族にどんな生活をしていたか聞いている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の一人一日の生活リズムを知り行動から、又は言葉から感じ取り全体を把握するように努めている		排便のチェックの仕方(体が変だわ、子供さんの名前を呼ばれる。)などの時排便が必ずあるのに気づく。 ちよとの気付きを大切にする。 熱発時、いつもより動かない等。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをシフトに応じ意見交換しスタッフ全員参加しカンファレンスを行い・モニタリングを行なっている。 又、カンファレンスなどは、家族へ報告し意見があるか促している。		モニタリング・カンファレンスは職員全員で行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画状況・効果・評価をすると共に職員の記録、家族の意見・要望に応じて見直し、又入居者のカンファレンスに応じて3ヶ月1回のモニタリングを行い見直しを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の暮らしの様子・本人の言葉の記録・食事・排泄チェック・内服確認表、勤務開始前の申し送り・連絡確認を行なっている。意見交換・ミーティング・モニターリングをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして家族と相談した上せ早期退院にむけてホームで医療処置を受けながら生活の継続に努めている。デイサービスと一緒にレクリエーションを行っている。		骨盤内骨折・鎖骨骨折の入居者に対しては入院することなく、医師の指示を仰ぎ家族と相談しながら生活の継続を行なった。現在は歩行されている。骨折の手術後は医師と家族と相談し生活リハビリ中心にて、行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心して暮らしていけるように民生委員・老人会・包括支援センターの方と運営推進会議を通して意見交換。文化祭見学 消防法大会見学・幼小中学校とていけいを結びボランティア等に来てもらっている。警察への呼びかけ	○	警察には声かけして、1人の入居者様は顔なじみになられ、随時警察へ行かれている。消火器訓練・避難訓練は年2回実施(小学6年生より授業で使用した三角錐をツリーにしてプレゼントしてもらっている。先生と6年生代表が持参。)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケアの温泉を利用したり、社協の協力でデイサロンへ参加ソーシャルワーカーとの連携を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加があり、周辺情報や支援に関する情報交換を行っている		キャラバンメイト参加
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医がかかりつけ医となっている。基本は家族同伴の受診となっているがほとんど職員が代行している。入居時に説明・同意を得ている。グループホームと外山内科が連携している為にかかりつけ医となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科の医師の診察を定期的に行い、その時に現在の情報報告し意見・助言を貰っている	○	心療内科の医師に相談して今後のケアに努めたい。カンファレンスにも参加をしてもらうように話をすすめている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置。入居者の健康管理や状態の変化に応じた対応をしている。医療機関との連携体制も確保。夜間の急変時一般病棟から協力をもらえる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族の希望を取り入れ入院によるダメージを防ぐ為に家族・医師と話し合い又、ソーシャルワーカーを通して情報交換を行いホーム内で対応が可能なかぎり出来るようにしている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームが対応できる最大のケアの説明を行い、状態変化がある毎に家族説明し援助につなげている		高齢者の方が入居しておられ、状態変化時その都度受診し、家族への説明を行っている。看取り説明・同意書
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時、すぐに対応出来るよう医療機関と連携をしている		エンジェルセットの準備
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移られる場合、家族にきてもらい本人と話をしてもらい、又情報交換を行なっている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>入居者様にあった声かけを行なうと共に入居者様を尊厳し傷つけないように対応をしている</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>入居者様にあわせて声かけ、質問がある時は説明し、希望時には応じるケアを行っている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一日の流れは作成しているが、入居者様の体調を見ながら買い物・散歩・行事参加など、その時の気持ちを踏まえながら入居者様の立場に立って行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援。本人様の希望時にも			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>行事参加時にはお化粧品・好きな洋服を選んでもらい又ネイルケアなど 希望で馴染みの美・理容室 季節に応じて声かけをしている入居者様の希望時にも行っている。</p>		2ヶ月から3ヶ月に1回、資生堂の方の美容教室(お化粧品)の開催
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>メニュー決め・食事準備・台拭き・箸・お茶くみ配り・食事配り・後かたづけなど買い物も、行っている。</p>	○	プランターで育てた野菜を利用。種類を増やしたい。畑での野菜作り
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>入居者方が要望される時・誕生日・行事食の時など 食欲低下している時にも好きなもの買い物時に食べたいもの言われた時は、買って食を楽しんでいただいている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意を伝えられない入居者に対しても時間を見ながら誘導。一人一人の排泄パターンを把握声かけを行なっている。トイレの場所が分からない方に対しては、トイレの場所を文字にて表示している。		排便コントロールにも排泄チェック表を使用し赤丸の印を名前の所へつけ全員が把握出来るように工夫している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人体調を見ながら声かけを行い、四季を通してほぼ毎日入浴。仲の良い入居者同士はいっしょに、一人が好まれる方、夜間に希望がある時は夜間に行なうこともある。一日2回入浴の生活パターンのかたに対しては一日2回の入浴のサービスを行っている。		入浴を嫌がられる方に対しては現在誘導の仕方や、いつ入浴したかを日付けチェック・声かけの工夫をしている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人体調・表情を見ながら声かけ、居室の温度調整・ゆっくり休める場所への移動・不安で寝付けない時は添い寝・暖かい飲み物・おしゃべりなどで対処している。職員がゆったりとしたペースで入居者様に接する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた外出・行事参加などの楽しみ 梅干し・梅酒作り、切干大根作りなど 入居者の方の出来そうなことは頼みながら感謝の言葉を忘れずに行なっている。ほぼ、毎日茶碗洗いを役割としてされている入居者様もいらっしゃる。		ふるさと祭り 文化祭見学 イチゴ狩りは行なっている。運動会参加、デイサロ
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力でお金を手元に置いている人、お金をあづかっている人でも受診時・薬取り・神社参・買い物、外出時などは自分で支払いが出来るようお金の手渡しをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を通じて近くの公園、弁当持参でハイキング 月1回神社・寺院参拝 月2回華道・レク参加 買い物 ドライブ 天気の良い日は散歩への声かけデイサロンへの参加		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望を聞き、遠くへの外出は一ヶ月前より職員の勤務調整・家族の参加も促している		汽車を利用してコスモスの花の見学。温泉や自宅へ家族と共に外出。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、暑中見舞い・年賀状の手紙を出している 電話希望時、電話がかかってくる時など		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会出来るように居室での話OK面会時間の設定はしていない。面会時には、お茶等をもてなし居心地よく過ごせるよう工夫している。毎朝の居室清掃。		夜間時ではインターホンで確認し面会をしていただいている
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の参加 申し送りで確認 身体拘束はしない方針身体拘束をしなくていいような工夫をしている。		鼻腔栄養を行っている入居者様に対しては短時間を目安に家族へ説明し同意を得ている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間はオープンにし施錠なし 夜間はセコム管理(22:00～翌6:00) 入居者の行動に注意しながら声かけを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者と同じ場所で記録・作業を行いながら状況把握 夜間は巡視を行い様子観察 いつもと違った行動表情時職員間で声かけし、安全なケアにつとめている。		巡視時間(21:00・0:00・3:00・6:00)物音時訪室
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の出来る状況を把握しながら対応。 保管場所あり 声かけをおこなっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の認識をはかり、万一事故発生した場合レポート記入し原因追求と対策検討 委員会あり		事故発生した時速やかに家族へ説明すると共に対応した事も報告している。又、市役所へ自己報告を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署で救急法の勉強会を年1回実施 院内でのAEDの講習あり 夜間時の緊急対応連絡網を作成 安全委員会参加	○	インシデントレポート作成・記入。アクシデントレポート。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と共に避難訓練・消火器の使い方訓練・エレベーター綴じ込み訓練など 年2回消防署査察あり 避難経路図あり	○	地域の消防隊との協力体制がとれればと考える
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に色々な行事参加・季節を感じとる為の外出・玄関の施錠などの説明。 その人にあつた対応をしていくこと話している 家族様の要望を聞いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日 バイタルチェック 本人からの訴え 食欲 顔色 様子の変化を見ながら状況に応じ医療受診を行なっている 体調変化時申し送り時に専門職より介護方針指導有り。		医療受診の結果は家族へ報告をしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容は職員が把握出来るように 服薬時は本人に手渡しし、きちんと服用されているか確認 新しく処方された内服薬については、カルテの裏に薬局よりもらった効能書きをつけ、職員が内服確認できるようにしている。		副作用の件で気になることがあれが、医療受診し医師とコンタクトをとっている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表記入し 水分補給・食物繊維・腹部マッサージ・温枕など 食材の工夫や運動		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ口すすぎ、職員が見守り・介助を行なっている。又寝る前には義歯洗浄を行なっている		入れ歯があわない方に対しては、家族へ報告し相談し作り変える検討をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成記入し職員が情報を共有し、又内科の管理栄養士のアドバイスをもらっている。一日水分量を1300mlから1500mlになる様に努めている	栄養士によるメニューの紹介 栄養士によるメニューの評価
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアル作成し予防に努めている。 感染委員会への参加・感染員からの指導で情報把握	毎年 インフルエンザ予防接種わ入居者・職員全員 爪きりわ各個人の物を使用し、使用后アルコール消毒 白癬を見つけた時は最後の入浴 ペーパータオル使用
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回のペースで冷蔵庫の掃除・チェック、台所の水周り掃除。まな板・包丁は使用前後にアルコール消毒・乾燥 食器類などは乾燥機使用ばかりではなく日光消毒もしている。調理前の手洗いの徹底を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に手作りの表札ベンチを置き玄関に作品コーナーを設けている 玄関開放 声かけ	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音 音楽 ゆず湯 菖蒲湯など 五感や季節感を意識的に採り入れている 月1回は入居者希望メニューや行事食に取り組んでいる 毎月の手作りカレンダー・季節感を取り入れた色塗りを飾っている。	毎月手作りのカレンダー
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋 こたつ ソファ(くつろげる様、手作りのカバーをかけている)でくつろげる場所 入居者1人1人の部屋 2~3人でストーブの回りに集まりくつろぐ姿 1人の部屋で2~3人で話をされていることもある	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参されることを伝え入居者と家族の意向に沿うように工夫している 写真 使い慣れた日用品・椅子・ダンス・など 畳の希望も聞いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気に応じて、窓・カーテンの開閉 食後や一定時間帯の換気 トイレは換気扇にてにおいがこもらないように、入居者の様子を把握しながら行っている 布団等を天気の良い日には干している。		朝1番 掃除時 毎食後 おやつ後などリビングの窓開閉 自室は起床時と随時行なう 外気温との差を考えながら常に気配り
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の床はクッション入りでやわらかく 廊下・浴室には手すり 玄関には靴が履きやすいようにベンチを置く 足元にはすべり止め コンセントを出来るだけ引っかからないように床にはわせない様に努めている。	○	車椅子対応のトイレのペーパーの位置がすこし手の届かない点があるため検討 経営者には報告
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・洗面所への場所の矢印 居室には自分の名前・写真・作品を貼り付け 状況に応じてカンファレンスをしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用して外の空気・景色を見ながら食事会 プランタでの野菜作り 狭いベランダでは花植え		色々と工夫しながら行なっているが近くの畑にて大根堀を行った。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームが人吉市の中心部に位置しており病院の建物4F・5Fを利用し作られたホームでハード面でのリスクがやや多いと思うが西側に日本三大急流球磨川・人吉城跡を見下ろし、全方向市内を一望できる素晴らしい環境で、ホームでの生活が単純化しないように認知症の進行予防をはかる為学習療法導入・季節行事の参加・月1回の行事食・入居者希望メニューなどを取り入れ入居者のペースに合わせのんびりとゆっくりした時間を作り、楽しく笑顔が絶えない家庭的雰囲気を作り上げるよう取り組んでいる。又病院・他の施設に直結している為年1回の健診をはじめ早期の異常発見・緊急時・急変時の対応がスムーズに行なえる。入居者の方や家族の方が安心して暮らしていただけるようにスタッフ一丸となり取り組んでいる。家族様、職員も一緒に認知症についての研修を行いキャラバンメイトに加入した。○スタッフ全員と共に自主的に取り組み力を入れた所。①小学生との交流。②資生堂、化粧ボランティア③レクリエーション時、ダンス教室を開催④利用者と大掃除環境整備⑤新聞作りの委員会の立ち上げ。(交流ニュース) ⑥レクリエーション及び行事の企画運営、反省、など